

龍鼓未来 (RYUKO-MIRAI)

〈プロフィール〉

プロ和太鼓奏者として活躍する友野龍士を中心に結成した、和太鼓奏者3名、篠笛奏者1名のユニットチーム。



◆リーダーの友野龍士は、知的障がいがありながらも子どもの頃から

和太鼓には類稀な才能を発揮し、和楽器のみならず、ジャズバンド・ピアノ・サックス・バイオリン等の奏者と自在にセッションできる能力を持つ。世界的に活躍する指揮者小林研一郎氏率いる「コバケンとその仲間たちオーケストラ」のスペシャルメンバーとしても活躍している。NHK TV (Eテレ) で、彼の成長と活躍の様子をドキュメンタリー番組で2度放映されている。友野龍士の活躍の場は、日本国内のみならず、スイス、ニューヨーク、イタリア、チェコ、スロバキア、台湾など海外での演奏実績も豊富である。

◆山本一も知的障がいがあるが、小学生から和太鼓を始め、友野龍士に出会ってから、友野を目標に演奏技術を磨き、各地で演奏経験を積んできた。東日本大震災(2011年)後は、被災地での支援演奏にも毎年参加。昨年、「パラフェス2018」に障がい者代表として参加。海外では、フランス、フィンランド、台湾、オランダで演奏実績がある。

◆山本順平は、ダウン症の障がいを持ちながらも、和太鼓教室(TAIKO-LAB)で腕を磨き、教室で出会った仲間たちと演奏経験を積んできた。2013年と2018年には、彼を主演とした「順平コンサート」も行い、持ち前の笑顔と明るいキャラクターで楽しいコンサートを創り上げた。

◆篠笛奏者、瀬戸洋平は、視覚障がいがありながらも、小学校の音楽の授業で和太鼓と篠笛に出会い、以来傍らには常に篠笛1本。特定のジャンルにとらわれることなく、ソロまたはさまざまなアーティストとユニットを組み、地域の祭り・イベント・ライブハウス・自然の中等で幅広く笛を奏でる。友野龍士と共に4人で結成したチーム「THE J. B. 'f (ザ・ジェイビーフ)」が、障がいを持つアマチュアミュージシャンコンテスト「第4回ゴールドコンサート」(2007年)でグランプリ受賞。海外では、ニューヨーク、中国、スペイン、台湾、等でも演奏し、今年4月に初のオリジナルCD「いちばん星」リリース。

★「龍鼓未来」は、2019年8月ベトナムでの演奏が初舞台。帰国後、10月27日に国内初ライブを行なった。今後は、2020年東京オリンピック・パラリンピックでの応援演奏や障がい者(チャレンジド)の自立支援はじめ、様々な場面での演奏を予定している。個性豊かなメンバーの魂の籠った演奏をお楽しみください。

〈メンバー〉



友野龍士
(RYUJI TOMONO)
〈知的障がい〉30歳
和太鼓



山本一
(HAJIME YAMAMOTO)
〈知的障がい〉25歳
和太鼓



山本順平
(JUMPEI YAMAMOTO)
〈ダウン症〉31歳
和太鼓



瀬戸洋平
(YOUHEI SETO)
〈視覚障がい〉38歳
篠笛